

'03

第九

のべおか第九だより（第330号）

2003年11月8日（土）

○発行 のべおか「第九」を歌う会

○事務局（延岡総合文化センター内）

882-0852 延岡市東浜砂町611番地2

電話 (0982) 22-1855

<http://www.horita.jp/dai-9.html>

---- 出席カードには会員番号を。練習中のケイタイ着信音はオフに。 ----

今日の練習	前回の練習	会員数	出席数	出席率	自己採点
長井先生の指導に基づいて	◆ ソプラノ	37人	21人	56.8%	63.6点
◎ A (237~330小節) p.9~17	♥ アルト	63人	50人	79.4%	68.5点
◎ B (411~654小節) p.20~33	♣ テノール	25人	13人	65.0%	63.2点
◎ C (655~762小節) p.34~43	♠ バス	27人	20人	74.1%	56.4点
◎ D (795~920小節) p.46~58	● 合計	152人	104人	68.4%	64.3点
12月13日まであと35日					

先日の直接指導から…



@長井先生の指導（10月31日）

その付近の注意…●総合・◆ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
 その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♠バス
 ※すべてではありませんが、“ü:ウ” “ö:オ”と表示しています。
 （ほかのパートの注意でも関連があります。全部読んでください。）

★【お話し】こんばんは。この前うかがったときはまだ初期段階だったんだけど、今日は追い込みに入っ
 てらっしゃるう（笑）日程的には…ですよ。…聞いてみないとわからない!?（笑）もう暦上は追い
 込みに入っている“のべおか「第九」”、前回うかがったときは前半をやらせていただいただけ
 ど、今日は前半を駆け足で後半をかなり詳しくという形でやりたいと思います。



○238【Freu-de!】ピアノを弾いて音をつけてもらったら、ああ歌うだろうというのが聴かないでもわ
 かっているから（笑）その前に日本語で「歓喜」って言ってみてください。「かん・き」って言わ
 ないでしょ。（“き”を弱く言うでしょ。）「Freu-de!」。今度はリズムどおり「Freu-de!」。…
 音をつけたとき、そうやって歌っていただけますか？（笑）じゃ今度は主シュブレキコールだと
 思って手をテイクバックして「Freu-de!」??これは練習のとき、ソロの部分で歌ってもらってま

すか？、いつも歌ってもらっているとよくないんです。なぜか？そのソロを聴いちゃうから。聴いて入ると遅いんです。そろがそこに入るぞと思って歌うと遅い。全員×。“Fr”が接頭語みたいなもんですよね。じゃ“reu-de!”って言ってみて。それに“Fr”をつけて。…ここにそんなに時間かけないでいきたいんですよ（笑）。でも一番最初にお客さんに聴いてもらうコーラスですからね、お客さんはこの一声ですぐ値踏みをしますからね、「あ！入場料がもったいなかった…」（笑）「これは熨斗をつけてあげたい！」と思う第1声ですから。



- 257 【Dei-ne Zau-ber～】 ここで大事なものがいくつかあります。“Zau-ber” 神の魔力が富める者とそうでない者を二つに分けた…時の流れが分けていた…“al-le Men-schen wer-den Brü-der”それが結びついたというフランス革命が題材になっていますから。フランス革命というのは貴族社会を崩壊させた皆を同レベルにしようとした革命ですよ。人間的にも精神的にも差別がなくなった。だから“Brü-der,”が大事よ。兄弟。傘下っていいですよ。ここは神のやわらかい羽の下にしようよ“Brü-der,”。そしてほかに言葉上大事なのは“Zau-ber”“streng ge-teilt;”

- 257 【Dei-ne Zau-ber】 “Zai-ber”というものに畏敬の念、畏れの念、尊敬の念を神に示して。ただ強く歌うというのではなく。

- 262 【wer-den Brü-der,】 “al-le Men-schen wer-den Brü-der”とcresc.して。“Brü-der,”だけ強くというのではなくて。

- ◇ 284 【Ja,】 男性、“や～あ”じゃない。“ヤーー！”もっと威厳持って歌って。威厳を持つということは暗くしろということじゃないのね。下を向くと胸声になってホールに飛んでいかない。足のつま先から頭のとっぺんまで全部“ヤーー！”という声にするつもりで。そんなにこもってたらダメだよ、明るくしろよ…と普通に注意すると、首から上の声になっちゃうんです。



- 284 【Ja,】 みなさんの譜面の一番最後に歌詞と意味が書いてあります。場所わかりましたか？みなさんは“Ja,”から歌いだすんです。…で、男性、何が“Ja,”なんですか？“Ja,”は“そうだ。もちろんだ。あたりめえだあ！”というところなんですよ。わかってましたか？「いままで10回は第九を歌ったよ」というベースの方がおられたら、なぜ“Ja,”なのか。ソプラノでもいいんですよ。“Ja, wer auch nur …”(284～)って何が“そう”なんですか？それはこの前のソリストの皆さんが歌っていることを受けて“そうだ！”なんですよ。皆さんの歌う部分にしたって「しかり、たとえ一つの魂とてこの地上にて汝がものと名づけるを得んや！」って、なんか遠からんものは音にもきけえ～！（笑）って感じで文語体だから大変ね。ソリストさんたちのところは「お前の魔力によって皆が平等になった。その中で友を得た。」はらから、兄弟。これは男同士、女同士。ここでは男性合唱が主人公になっていますから、妻を得たということ。そういうことを皆さんの合唱の前に歌うんです。同性の友情も、男女の愛も勝ち得た。けども自分のひとつの魂の中に閉じこもっていて他の人との融和ができない者は、神の庇護のもとにできたこの輪っかの中（地球上）か

ら涙ながらに立ち去りなさい！ということ。“wei-nend sich aus die-sem Bund.” (291,292)。それを“そうだよ！”って言うのがこの“Ja,”なんです。これは延岡では初めてお話することです。ここはなんで“Ja,”なのか？…ということ。

- ◇ 285 【Ja, wer auch nur】 “auch” “アォ…？” “アォホ！”。くれぐれも“アウフヌル”って言わないように。その数小節あとに“auf” (287)ってのがあつたでしょ。あの発音にならないように。これは要注意ですよ。みなさんだけじゃないの。音大生だろうがどこの合唱団だろうが“アウフ”って言ったりしてる。そちらのほうが言いやすいんですよ。“アォホ”だと息が漏れちゃうから。“auch: ~もまた”という意味。“auf: ~の上”という意味。全然違うんです。



- 285 【wer auch nur~】 3つ、注意があります。“Ja”と“wer”の間に“,”があると思います。“そうだ！”ってまず言ってください。なにが“そうだ！”かと言うと、“自分の魂の中に閉じこもっているやつは…”ということが“wer”より後です。だから(続けて)“やぁ~べる”じゃないのね。ソプラノさん特に。どのパートもそう思っただけ。それが1つ。2つ目が“nie” (289)これはいつも言うように最上級の否定形ですからね。“決して……ない！”というもの。それから3つ目が“der steh-le” (290)。この“der”を強調して。ここに(小さくしてください) dim.がありますよね。“der”までは強い。今歌っているのを聴いていると、その前の“konnt”が強くて“der”が弱くなっているから。僕が中学校の英語の授業で習った先生は「…ところお~の…」って強調して関係代名詞を言っていたこと思い出すけど、その部分が“der”なんです。そうやって覚えて歌って。

- 289 【_ wer's nie ge-】 “nie”は長く歌えないかな？



- 290 【konnt, der steh-le~】 なんでdim.かというね、立ち去るときに「エーンエーン！」って大きな声で泣いて立ち去ってもらいたくないわけ。「俺なんてどうせ…」って卑屈になって逃げてほしいわけよ。そのdim.なんだから反体制の人もちゃんとしてね(笑)。
- 313 【Küs-se gap sie】 “Kii”って発音してみて。…僕にはね、2つの流れに聴こえる。ひとつは“ü”。ひとつは“キューウ”。最初はおんなじなんだけど、途中からAコース・Bコースに分かれちゃう(笑)。言い始めたところで、どこまでいってもその口。ドイツ語の先生は「“ü”は“イ”と“ウ”の中間音だよ」と。最後は“ウ”にならないように。……もっと歌いだし“K”を。“~ウセエガ…”じゃなくて。これは“キスをする”という動詞なんだけど、嫌いみたいよ？キスが！(笑)。ね、みんな好きよね(笑)。アルトが一番頷いたねえ！(笑)
- 319 【und der Che-rub】 去年の録音を聴かせてもらったら、“ケエルブ”となっていますから、それを“キールブ”。“steht”は“シュティート”でしょ、“シュテエート”じゃない。そこを

“シュティート”と歌うのにここを“ケエルブ”と歌ってはいけません。理由はどちらも同じ、ドイツ語の超母音は“エ”が“イ”に近づくんです。（日本語の）“イ”ではありません。“See-le” (286)そこもそうでしょ。“ゼーレ”を“ジューレ”というのは超母音だから。どこかの長母音は“エ”とってどこかを“イ”とってはいけません。……sfがついています。そこをもっと！。ベースはオクターブ上がるからつけやすいですね。ほかのパートもsf。

- 330 【Gott.】 自分の歌っている位置と、一番後ろの非常口の場所まで“ーオッツ”その距離感を感じてね。めいめいが。



- 411 【Lau-fet,~】 いくつか…まず“Lau-” “ラウ…”じゃなくて“ラオ…” “ウ”になりすぎずに“オ”に近くね。ここもソリストが歌ってきて皆さんが入るときにオンタイムで“La”。それから“wie ein” (419)ここは休符がありますね。しばらく進むともう1回同じ“wie ein” (427)が出てくるけど、ここはつながってますね。この違いをはっきり。

- 431 【--gen!】 “-gen!” もっと深く。



- 545 【Göt-ter-】 “ショーネル ゲエツテル” ってやらない！ “ゲオツテル”。“ö”の発音は同じ！
- 549 【ly-si-】 “リィ〜” じゃダメ！ “Kus-se”と同じなんですよ。“ィ”じゃないですよ。長母音なんだから“リウージウム”。
- 552 【tre-ten】 “トリューテン”。“steh-le”と“See-le”と“Che-rub”とみんな同じですよ。（“エ”でなく“ィ”）
- 595 【Seid um-~】 ここは Andante maestoso 威厳を持って。855私小節にも同じ“Seid um-”が出てきます。そちらは人生の勝利に向かって突き進めともの凄く速いけど。こちらは威風堂々と。
- 595 【Seid um-】 “S”が遅い！ “…ザーアーイ”。
- 598 【o-nen!】 スタッカートが付いています。
- 603 【Seid um-】 女性が出てくるときには“S”をためて出てきてくださいね。
- ♡ 606 【o-nen! Die】 “Die”の音はとってもしっかりした音を。ほかのパートとのバランスを欠くぐらいのつもりで、もの凄くはっきり言ってくださいね。

- 610 【Welt!】 “gan--zen Welt!” だと思って。あと一回のご奉公だと思って “gan--zen … Welt!” と息つきをしないように（笑）。この前に(601・602)で男性が “gan-zen Welt!” とがんばっている所がありますが、ここも “gan--zen” が大事なのね。ゼウス様が全宇宙を司ってくれているということで、“ベェ〜ルト” じゃなくて（笑）。
- 619 【Brü--der!】 fがそのままついているときと、(f)してるるときと。ここは意識的にはfなんだけど、音的には…フォルテっていうのはね、イタリア語でフォルツァ (forza) という名詞からきているんだけど、“パワー (力)” という意味なんですね。ここは押し付けがましいこれ見よがしのfではなくて、「兄弟よ!」という呼びかけがとてつもない大きな輪になっていて、「世界、人類みな兄弟!」みたいなそういう大きな輪っかに対して “Bru-der!”。ハートのな(f)だから、ちからまかせに力まないで欲しいんです。柔らかいフォルテにしましょう。



- ◇ 625 【Va--ter】 “Va--ter_woh-nen” の前でカンニングブレスをなさる方、ソプラノさん特に “Va--ter_” が高いのですが、まるで続いているがごとく歌わないと。勇気百倍にドイツの人がならない。
- 631 【Ihr_ stürzt】 指揮者が “_” のところで必ずサインをしてくれます。“r_” と “stürzt” を両方そろえます。“r_” も言わないとだめよ。
- 634 【o-nen?】 “-nen?” は気をつけて。(急に強くならない) ドイツ語の九州訛りだ（笑）。“Mil-li-o-nen?” だから。小さくしなくてもいいの。互角でもいいから。
- 637 【Schöpfer.】 “Schöpfer.” なんてあんまりたくさん出てこないけど、“シェッフエル” じゃなくて “シオッフエル”。特にテノールさんは上にあがるところだから口が “ェ” と開いてしまうのでしょうけど、“オ”。



- ♡ 654 【---nen.】 “--nen.” で下がるのね。“--nen.” は縦開き。もっとお願いしたいのは “ネ” って強く言わない。“n” を “ネ” という瞬間に音が下がる人がいるから。“ネ” なんかむしろなくたって、他のパート特に男性が言ってくれていますから。
- ♡ 655 【Seid_ um--】 それこそさっきのベースの “Ja,” に匹敵するぐらいの勢いで。踏ん張りがすごく大事。
- 655 【~】 ここからはアルトが “Seid_ um--…” と歌う。それはバスに出てきてもテノールに出てきても。そこにソプラノさんが “Freu-de, schö- ner…”。そういう組み合わせだと思って。同じキャラクターじゃなくて違う次元のものが2つ合わさっているというドッペルフーガ。それがずれ込んで

フーガだけでも大変なのにダブル、二重にしているわけです。よっぽどここは作曲上大変だっただろうベートーベン。しかも縦は和音がしっかりはまってないといけないわけですから、

- 730 【Ihr stürzt〜】 この前までは頭を揃えようという気持ちがあるから揃えやすいんですが、ここからは伴奏も骨組みだけしかないでしょ。和音があるわけでもない。みなさんの音程をそのままファゴットとかが演奏してくれるんだけど…。これはオケもうまくなっちゃいけないし、コーラスはもちろんうまくなければならない。どこが揃えづらいかといえば、6拍目が揃えづらい。ここから次の1拍目に行くところがくるしやすいの。



- 730 【Ihr stürzt】 “イル” じゃないの、“イ〜ル” 意味は“君たち” 民をいってるの。“I” と“r” の間に“h” があるでしょ。たとえば王監督の背中にはOhって書いてあるでしょ。だけど“オホ” じゃないです。あれは“O” が長母音だよという意味でしょ。感嘆詞の“Ah” は“アー” でしょ。だからここは“I” が長母音ですよという意味だから。……もうちょっと声にして。あまりp、p、と思わないで。

◇ 742 【Such' ihn】 “ihn ü-” で音が上がっている部分、時間かけないで。

- 745 【zelt! Brü】 いまの“Brü” は何かついてない？…ね。sfがついてる。単なるfにしないで別個のものにして。新たな感動にして。

- 753 【zelt muß】 この前までcresc.して、“zelt” でdecresc.。“…nen” とcresc.したものをはっきり投げないで。

- 762 【-nen.】 最後の所はppで、decresc.みたいに聴こえればいいんだけど、最後までインテンポで行く指揮者とそうでない指揮者がいますので、あわせの時にしっかり。



- 795 【Dei-ne Zauber,〜】 ここはpって書いてあります。それでソリストのところにはpって書いてありません。ソリストはここではキャッキャキャッキャ絶叫しています。特にソプラノさんが言っています。そこへpで入ってくるんです。…で、これね、指揮者がちゃんと指さないと出遅れて、いつ入ってくるのかわからないところなんです。で、「あ…こっから歌うんだっけ!？」って歌い始めると幸いにもcresc.に聴こえるんです（笑）。でもそれだと困るんです。でもそれだと困るのね。最初からpで入ってこないと。観客が「あ、コーラスが歌い始めた！」と。ソリスロがキャッキャ歌っている中でpで歌い始めたとわかるコツは、息で歌うということです。言葉の語気が…“Dei-ne Zauber,” って。そしてpって欠いてあるすぐそばにcresc.って書いてありますので、すぐ真声、ホントの声に。……はい。息で出るということはテイクバックがないと。

- 795 【Dei-ne Zauber,】 だめだぁ！“ダイネツア〜ベル ダイネツア〜ベル” って。“ツァオ…ツァ

オ”。一番最初に出てきたでしょ。“Dei-ne Zauber,” (257)って。でもここは速いから、言葉のさばきを。

● 806 【Al--le~】 “アッレ” って言うてみて。これが4回あります。その4回目の前でプレスをする。

○ 806 【Al--le】 ちょっと入りが遅いの。

○ 809 【Men-schen,al-le】 4回目の“al-le” はもっといい声で。一番いい声で。

○ 810 【Men-schen wer-den】 そしてその4回目の“Men-” (810)から遅くなりますね。そしてdecresc.が書いてありますね。その2拍目の音、みなさんcresc.しないよ。その次“wer-” でやろうとするから遅いんです。“en”の2拍目はcresc.開始。“-sh”はせっかくdecresc.したのに。そのことができるかどうか。ゲルマン民族の粘液質なところを出さないと。“Brü-der,”だけ強いということがないように。cresc.の延長上に“Brü-der,”があるんですから。



♣ 813 【Flü-gel weilt.】 “-gel” って上がるところ、完全に頭声。アッペルトというんです。開く。あくびの延長と思えばいい。

◇ 814 【】 はい、ソプラノのA子さん、“weilt.” って残らないようにしてください。抜いていくように。“…ァァーァイルト” というのはすごく目立ってしまいます。オーケストラを超えて目立っちゃう（笑）。



○ 832 【Men-schen!】 インテンポで歌っても“-schen!”までしっかり。ちゃんと存在感のある“Men-schen!”を。いまは“メンシエ…”（笑）。僕は笑わかそうとするわけじゃないんです。みんなが僕を笑わせる（笑）。

○ 855 【Seid um-schlungen,】 凄いPrestoだから、小節線の前で“Seid”を発音しはじめること。

○ 864 【Brü-der!】 “Brü-der!”という呼びかけが全曲を通じていつも目立つようにね。

◆ 865 【ü-berm~】 ソプラノとテノール、みなさん“ア~ァァァ ア~ァァァ…”じゃなくて“アーハハハ アーハハハ…”なぜそこまではっきりさせないといけないか、ほかが“タラララタラララ”で、ゴチャゴチャになってしまうから。

♣ 865 【ü-berm~】 “ユウ~ベル”じゃない。“イヒ~ベル”。

● 880 【Die-sen~】 “…ガンツェンベル…ガンツェンベル…ガンツェンベル…”って聴こえるんだ

(笑)。“…ベルト…ベルト…”言葉の母音の長さが長いからそこで息を吸う人がいるようです。…吸わない?どこで吸う?!。“ベルデルガンツェン…ベルデルガンツェン…”って。“Welt!”の“lt!”を言ってほしいんです。しかもブレスはこの“lt!”の後しかやっちゃだめだよ。もちろん一息でもいい。“デル…デル…”って“すべてのデル”。ドイツ人聴いたらいったい何(笑)。“gan-zen Welt!”というのは“すべての宇宙”でしょ。それが“すべてのベル!”それが5回出てくるんだ。

- 900 【一〜】 テノールさん、アルトさん、ちゃんと歌えているでしょうか?特にテノールさん。



- 915 【Toch-〜】 ここ、“Toch-ter”というのは“天女”です。“aus”というのは“〜から:from”です。“E-ly-si-um!”というのは“樂園”です。“樂園から降りてきた娘”という意味なのね。そうすると普通ね、“daughter from paradise”だったら“daughter”“from paradise”です。前置詞の前にするでしょ。ところがここだけは“Toch-ter aus”“E-ly-si-um!”なんです。ここは前置詞の“aus”までは強く。“E-ly-si-um!”は弱く。ff、pの差をつけて。
- 915 【Toch-】 これは若杉弘先生がよくおっしゃるんだけど、「どんなに長い曲でも4楽章のどこかに今までやってきた音楽の磁石を感じさせる部分がある」と。それはもの凄いffもなり得るし、もの凄いppで聴いている人を集中させる、ppで集中させるffのエネルギーと同じ聴衆のエネルギーを得る、そういうものが必ずあるということなのね。で、僕はこの“Toch-”の瞬間だと思う。僕がこの部分で手を叩きます。そのときみなさん、ちょうだいね!
- 916 【-ter aus E-】 ここはpじゃないの。急にpにしないの?ここの合唱団は全然そういうふうに聴こえないけど。テンポさばきをやることばかりに気をとられて(笑)。
- 917 【ly-si-um!】 “エリィ〜ジウム”じゃなくて、“エリオージウム”あんなにフーガのところでは“エリオージウム”って言ったのに、ここではほとんどみんなが“エリィ〜…”になってしまってるよ。
- 919 【Göt-ter-fun-ken! Göt-ter-】 すんげえ恥ずかしい!“ゲェ〜ツテルフンケン”。さっき“ゲオーツテルフンケン”で言ったのにどうしたの?せめてベースとあるとは“ゲオー”って言ってあげてよ。ほかは高いから大変かもしれないけど。



- ★ 【お話し】 今日駆け足になってしまいましたが、一応、第1級の言いたいことは全部言ったつもりです。あとはどのぐらい皆さんがここ(頭)じゃなく、ここ(喉)に記憶すること。ここ(頭)には入るんです。ここ(喉)にはなかなか入らない。…と、ディートリッヒ・フィッシャー・ディスカールというバリトン歌手が言ってました。だから頭と喉のレベルを一緒にするために喉を鍛えさせるん

だ、と。そうですよね。皆さんもよその演奏会を聴きにいったら、自分のことはさておいて「なに？あれえ！」と批判する耳は持っている。頭も持っている。というようなことにならないように、喉に覚え込ませる。あと1か月半、がんばってください。

◆長井先生、ありがとうございます。とても楽しかったです。毎年、同じことをご指摘されていて、自分の不出来がはずかしいです。

◆今年は検定や模試が目白押しで、満身に五ヶ瀬から出てこれません。それでも頑張って歌います!!(モヘモヘ)

◆高音の発声は、とびはねて！の今村先生のアドバイス…いただき！さっそく使わせていただきます。

◆前回は本当にうっかり欠席をしてしまい、残念無念でした。「無欠席でいこう！」と決心していたのですが…。長井先生のご指導は楽しかったです。けれどドイツ語はやはり難しいなあと思ったこと

でした！1に練習、2にも練習だと思えます。頑張ります。(夢子)

◆風邪もなおって元気ハツラツ。今日は長井先生の指導日。嬉しいやら何と言われるか…と恐ろしいやら…です。(セロ弾きのゴーシュ)

◆やっとかぜがよくなって、声も出るようになりました。長井先生のご指導、本当に楽しいです。年に2回といわず、いっぱい来てほしいです。

◆長井先生、楽しくためになるレッスン、ありがとうございます!!(You-You)

◆長井先生の指導は、ポイントをきちんと教えてくださって、とてもいいです。2回休んだので、歌えるか気がかりでしたが、どうにか歌えてホッとしました。これからの練習も楽しんで取り組みます。

◆今日の練習で、あーまだまだできてないなあ…(自分は)と痛感!!がんばらなくちゃ!!(kuma)

◆今日は長井先生の練習日ですね。はりきって頑張ります。(S.N.)

♥時だけが過ぎていく…練習しなくては一と(発音がむずかしい)楽しかった…でもどこまで正確に歌えるか…(九ちゃん)

◆さすが長井先生!!ご指導を受けただけで、皆様の声がハリがあって、いよいよ本番だなあ！と。心が高ぶりますね。風邪をひかないように本番へ!!

◆長井先生のお元氣な姿をご指導にいつも嬉しく思います。もっと回数多く聴けたらどんなにいいかと思えます。…毎年のことながら心にずどんと響く音声、すごいと思えます。ありがとうございます。

◆大変細やかな指導をありがとうございました。

◆長井先生のご指導、やはり気合いが入ります。明日からもう11月。残りを休まないで頑張らしましょう。(ブンちゃん)

◆長井先生に指摘され、充分わかっていのに、歌い始めるともうどうすればよいかわからぬ程の状態で、一体何でしょう。頭で覚えて声帯をきたえる。最後の言葉を肝にめいじてがんばります。愛子先生、文化功労賞受賞、おめでとうございます。(メダカのおばちゃん)

◆とても気持ちよく声が出ました。大ホールの後ろまで届くような…本番に向けて自信がつかしました。(櫻子)

♥久しぶりの長井先生のレッスン。あっという間に楽しい2時間でした。今日のレッスンをしっかり身につけて自分も楽しめる第九の本番を迎えたい!!(スピカ)

♥長井先生、ありがとうございます。明日は私の学校の合唱コンクール。がんばるぞ!(あんり)

♥たくさんたくさん課題はありますが、一つ一つこなしていくしかないと改めて感じました。

♥第九だより、いつもすごい量の

お便りをいただきますが、なかなか読むのに大変です。書かれる方はもっと大変だと思います。そこでお願いします。前回の指導の要点のみをダイジェスト版にした第九だよりをぜひお願いします。

【毎回掲載しているものが“ダイジェスト”です。先生の発せられた言葉はすべて要点です。書くのは大変と思われるのですが、それを読むのはそう大変なことではないと思います。】

♥今日は楽しく練習受けました。つくづく発音はむずかしかったです。かぜをひかないように気をつけます。

♥肋骨を骨折して、しばらくお休みをしていました。まだ完治していませんが、今日はがんばってきました。

♥今日から再出発します。よろしくお願いします。(史)

♥風邪を引き込み、物もちの良さには(2週間も)びっくり。夜間外出は控え中ですけど、今日は別ですかね。長井先生のご指導、とてもおもしろくそして分かりやすく有意義でした。どうもありがとうございました。(ねずみバーバ)

◆注意を受けたところがきちんと歌えるよう練習あるのみ。がんばらねば!!

♥長井先生のユーモアたっぷりのご指導にとっても楽しくうたえました。意味がよくわかり、とても短い時間に思われました。よかったです。(アッチちゃん)

♥とても勉強になりました。あと5回ですね。頑張らしましょう。(日向キルトママ)

♥皆さん、お疲れさまでした。

♥長井先生は素晴らしい。いつも喝を入れられる思いです。有り難うございました。

♥今日はいつにも増して声が出ませんでした。健康管理に気をつけます。長井先生のおっしゃること

が難しくて、なかなかその通りに声が出ません。

♥ありがとうございます。今日はよく声が出たように感じました。(Emily)

♥先生の声はすばらしい。

♥長井先生いつも楽しい練習です。ピアノもきれいですが、声もやさしくてホッと気持ちがなごみます。先生のソロをいつか聴きたいです。歌っていたきたいです。いつか必ず。

♥発音や発声がわかり易く、しっかり頭に入れました。本番までレッスン、レッスン…します。とても楽しい練習でした。お疲れさまでした。(ヨッチン)

♥長井先生の楽しい指導をありがとうございました。

♥長井先生の授業

(?)はいつも全力疾走のエネルギーを使います。(引き出されてくるのだと思います)貴重な時間をありがとうございます。(ドウリンク)

♥長井先生のご指導を受けられる幸せをひひしと感じます。ありがとうございます。

♥前回お休みしたので、今日は心配でした。

♥長井先生のご指導、楽しみにしていました。とてもわかりやすく精一杯歌えました。(光ちゃん)

♥長井先生のご指導受けられて、とてもよかったです。いつも欠席が多くてすみません。がんばります。

♥風邪をひいていたこともあって、ほとんど予習をしていませんでした。きょうは胸を張って歌えませんでした。でも長井先生のご指導はとてすばらしかったです。

♥長井先生の素晴らしいご指導、あっという間の2時間でした。本番まで本日の要点を忘れないよう



に頑張りたい!!

♥長井先生の歌う姿、かっこいいですね。つい引き込まれてしまいます。

♥すばらしい指導で時間もたりないぐらい。思いっきり歌えた。

♣長井先生、非常にためになりました。

♣前回欠席し、少し遅れてしまった気がします。長井先生の指導はいつも素晴らしい。

♣有意義なる時間を持つてました。

♣長井先生ありがとうございました。高いレベルでの指導で、たいへんよかったです。(ねこふんじゃった)

♣ご指導、ありがとうございました。(す)

♠あと5回の練習で私の自己評価が70点、80点、90点とつけられるようになりたいです。

♠欠席が多すぎてやばい!と思っています。次回、特に後半に力を入れて自主練習してきます。

PS:皆さあ〜ん、あたしゃおかまじゃないですー!(ToT)

♠長井先生のご指導のとおりをいつも歌えるように頑張ります。(HK)

♠長井先生の声量の豊かさ、身近さで、聴いているだけで感動します。(グリーンヒル)

♠音に感情、情念をこめることの大切さとむずかした…外国語の場合は特に…(K.T.)

♠長井先生の指導、

毎回同じ所を指摘されるが、その時はそれなりに歌えるが、忘れないようにしたい。

♠とっても感動しました。長井先生がGood!に見えました。(がみchan)

♠今日も長井先生のご指導を楽しみにしていました。いつも音楽の宝物をたくさん頂戴し、本当に有り難うございます。またまた財産が増えました。(吉野の狸)

♠長井先生の発音が素晴らしい。先生の声の練習用のバステープが欲しいですね。発音の勉強をしたいです。(My Hello)

●編集後記

次回は11月15日(土) 19:00~21:30

前回の長井先生のご指導直後、連休が入ったことで編集は早めに終わりました。実はこの先生の指導内容の文字化もみなさんの一言をまとめる作業も実はワープロソフトを使っていません。どちらもFileMaker proというソフトを使うのですが、みなさんの一言を入れる画面は今年全部の練習日の感想を書き入れる場所が一覧で出ます。つまり“前回の長井先生の指導の日以来、ずーっとお休みで先日久しぶり?”ってことは“ひとことを入れる時点で”わかります。前回の大阪一万人の第九の例までとはいきませんが、出席率をはじめ、団員の意識が低下しています。以前ならば、先生の指導日の出席率や“自己採点”は急上昇していたものです。今は自己採点にもたいした波は見られなくなってしまっています。【munenori@horita.jp】